

# TOM

東京音楽大学 音楽文化教育専攻 教授

## 小日向 英俊

### インド音楽から考える世界音楽研究 —音楽を見る・知る・楽しむ・深めること—

退任記念最終講義



© SEIZO TERASAKI

インド音楽研究の立場から民族音楽研究・世界音楽研究の方法論と現状についてまとめ、ワークショップと演奏を交えながら、音楽研究の成果を共生社会実現などの社会課題の解決につなげる展望までを描く。会場では、附属民族音楽研究所所蔵の楽器資料などの展示も行う。

- プログラム
- パート1：インド音楽を見る・知る ～インド楽器を見て音楽を知るワークショップ～
  - パート2：インド音楽を楽しむ ～シタールとタブラの演奏～
  - パート3：世界音楽研究とその応用 ～音楽研究フレームワークと社会への還元～

#### 小日向英俊 プロフィール

東京音楽大学教授・附属民族音楽研究所所長（音楽学、シタール奏者）。1980年国立音楽大学楽理科卒。1987年インド国立パナラス・ヒンドゥー大学大学院修了（M. Phil. Musicology）。著書に『インド パナラス音楽歳時記』（単著、1992年）、『インド文化事典』（共著、2018年）、主要論文に「The reception of Asian musics in modern Japan: Who were learning Indian music?」（2006年）、「「世界音楽」—日本における受容とその意味」（2015）、「南アジアの太鼓のフィールドワークから—コルカタのタブラー・パーヤーン製作—」（2017）など多数。1977年よりスシュマ・オマタ、1982年よりクリシュナー・チャクラヴァルティの各氏にシタールを師事。東京音楽大学附属民族音楽研究所その他の社会人講座講師を歴任。世界音楽を講じる傍ら、シタール演奏、執筆などを行う。ソロ・アルバムに「月明かりの下 Under the Moonlight」（2005年）、アルバム「Music in the Realm of Fireflies」（2024年）に参加。

#### 助演者：逆瀬川健治

現在、洗足学園音楽大学講師。1977年、インド、ネパールの旅でタブラに遭遇後、即興音楽グループ「ヒカシュー」に参加。二橋潤一氏にタブラを師事。1978年より、カルカッタ（現コルカタ）にて巨匠パンディット・マハブルシュ・ミシュラ氏にタブラを師事。1981年帰国後、北インド古典音楽をはじめ、ジャンルを超えた演奏活動を展開。日本各地、インド、台湾、香港にて国内外の音楽家と共演。レコード、CD、TVCM音楽に参加、TV番組「題名のない音楽会」、「大人の自由時間」、NHK WORLD-JAPANベンガル語放送などに出演。東京、名古屋、松阪、浜松でタブラ教室を主催。リーダーアルバムに「にぎみたま」（2001年）。



2026年 3月23日(月)

15:00 開演 14:30 開場

問い合わせ先

rlect\_kobinata@tokyo-ondai.ac.jp

入場無料  
全席自由  
申込不要

会場案内

東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス  
C405教室

東急東横線「中目黒駅」「代官山駅」より徒歩4分  
※会場へは公共交通機関をご利用ください。

<https://www.tokyo-ondai.ac.jp/>

満席の場合、入場をお断りする場合がございます



主催：東京音楽大学 音楽文化教育部会